

この一年は、芝浦でお世話になった方々との別れがあり、建築会も形を変えて出発するという記憶に残る年になりました。私の設計への探究は、石川先生のゼミと共に始まり、大学院時代にこの道で生きていくと覚悟を決めたのも、多くを語らずともいつも見えていくださる先生のお陰です。他にも還暦、退官、古希、旭日中受賞、傘寿：と節目でお声掛け頂き、お手伝いできたのも本当にいい思い出です。本業以外に編集など様々な業務もするようになったのは、三井所先生と小柳津先生が宮内喜久さんに推薦して下さったことが始まりです。今、建築会に関わっているのは、ゼミの大先輩の五十嵐さんに大学に戻るから手伝ってくれと言われたことが始まりです。この場をお借りし、芝浦で出会い、ご縁のあった全ての皆様に心から感謝申し上げます。

道田淳（一九九三卒）

| 2020年度 会計報告 | | (2020.7.31現在) | |
|-------------|---------------|---------------|------------|
| 収入 | 繰越金 | 銀行預金(記念事業) | 450,844 |
| | | 普通貯金(会費受入口座) | 691,752 |
| | | 現金 | 78,544 |
| | | (小計) | 1,221,140 |
| | 年会費振込(会員) | 2,000円×256名 | 512,000 |
| | 年会費振込(新会員) | 3,000円×37名 | 111,000 |
| | 寄付 | 23名 | 113,000 |
| | 60周年記念事業貸出金回収 | | 126,000 |
| | | (小計) | 862,000 |
| 計 | | | ¥2,083,140 |

| | | |
|-----|-----------------------|------------|
| 支出 | 会報第35号印刷費(5,280部)、封筒、 | 376,916 |
| | 払込取扱票(4,530枚) | |
| | 宛名シール(4,480枚) | 55,000 |
| | 会報等封入代(4,480部) | 34,496 |
| | 発送料:4,480通×83円 | 371,840 |
| | 会報デザイン校正料 | 110,000 |
| | ホームページ維持費 | 10,186 |
| | 事務費 振込手数料 | 2,617 |
| | 卒業生記念品 | 53,768 |
| | デザインチャンピオンシップ支援 | 55,705 |
| | 学位授与式御祝い金 | 0 |
| | レターパック:360円×45ヶ | 16,650 |
| | 通信費 | 0 |
| 慶弔費 | 22,000 | |
| 計 | | ¥1,109,178 |

| | | |
|------|--------------|----------|
| 次期繰越 | 普通貯金(会費受入口座) | 900,376 |
| | 現金 | 73,586 |
| 計 | | ¥973,962 |

| | |
|----------|------------|
| 支出+次期繰越金 | ¥2,083,140 |
|----------|------------|

第13回建築会 定期総会・懇親会について【書面審議】

2020年11月28日(土)に開催する予定で計画・準備してきましたが、新型コロナウイルスの影響を考慮し、今回は主要事項に限定した書面による審議とさせていただきますことになりました。同封の返信用葉書(お手数ですが、切手は返信者にて貼付して下さい)に「承認」または「反対」のご回答を**2021年2月28日まで(消印有効)**にお願い申し上げます。

建築会

芝浦工業大学
建築学科卒業生たより

vol. 36
2020年12月

芝浦工業大学建築会
135-8548
東京都江東区豊洲3-7-5
TEL. 03-5859-8700
FAX. 03-5859-8401
http://sit-arch.com

前年度の決算は、別掲の会計報告の通りとなっております。年会費は、建築会活動にとって最も大きな収入源であり、ここ数年間は二百二十から二百五十人程度の会員諸氏から会費を納入して頂いております。納入して頂いた会員の皆様には厚く御礼申し上げます。引き続き、本会報の印刷・郵送等の費用(昨年は約四五〇〇人に発送)、学科との共同事業などに有効に支出して参りますので、**年会費納入につきましては、一層のご理解とご協力をお願い致します。**

納入方法につきましては、封筒に記載されている会員番号をご記入の上、同封の郵便振替用紙で、年会費二千元をご送金下さい。個人情報に変更があった場合は、通信欄にご記入下さい。

建築会総会・懇親会の開催予定の変更と、(仮称)芝浦建築会の設立に向けて

建築会会長
枝広英俊(一九七一年卒)



一九六七年に活動を始めた工学部建築学科の卒業生の会『**建築会**』は、本年二〇二〇年三月に工学部として最後の卒業生を輩出し、二〇二一年からは**建築学部建築学科**としての卒業生を迎え入れることとなります。既報の建築会会報でもお知らせして来ましたが、二〇一七年四月に建築学科は建築学部建築学科として、従来の工学部建築学科と建築工学科およびデザイン工学部デザイン工学科(建築・空間デザイン領域)の二学科一領域を統合・再編し、一学科三コース(SA・UA・APコース)として新しい建築教育の展開を目指して開設され、**豊洲一貫教育**で新たなスタートを切りました。

そこで、建築会では、建築工学科の卒業生の会『**建友会**』の役員・常任幹事の方々と三回の合同会議や三回のコア会議を通じて話し合いを行い、両会が合流する新しい会(仮称)芝浦建築会』の設立に向けて、新たな運営方法や新会則の立案等の作業を進めてきました。最終的な話めに入ってから**新型コロナウイルスの影響により一時中断・延期**していますが、感染拡大が落ち着き次第、合同の設立総会を開催し、皆様の同意のもとに新たな活動を目指して参りたいと考えています。

建築会会報は、ここ数年間、住所が判明している卒業生に対して、毎年およそ四五〇〇〜四六〇〇通の卒業生だよりを発行・郵送させて頂きましたが、本会報【第三十六号】

ただし、次期繰越金がかかり漸減し、会報の発行などの活動に不可欠な資金が不足していますので、**寄付(一口、千円以上)も含めてできるだけ多くの方々からのご協力をお願いできれば幸いです。**

なお、建築会は次年度から建築学部建築学科卒業生の輩出に伴い、(仮称)芝浦建築会として活動を継続する予定ですが、**残余資金につきましては、新たな会で引き継ぐことになることを申し添えます。**

は工学部建築学科の卒業生の会『**建築会**』としては最終号となると思われます。建築学科卒業生の近況報告や活躍、大学および建築学科教員・学生の活動・活躍状況、会計報告、さらには会費納入者名簿などを中心に情報提供させて頂きました。会員の皆様には、母校を感じながらの長い間の精誠ご協力を賜り、心から深く感謝申し上げます。ただし、今後は予算不足とも相まって、会報あるいは会誌の発行・発送が危ぶまれています。継続するためにはより多くの方々からの**会費納入あるいは寄付を必要としています**。今後ともご協力・ご支援の程を重ねて宜しくお願い申し上げます。

また、『芝浦工業大学建築会』のホームページでも既にご照会・ご通知させて頂いておりますが、本年二〇二〇年は、会則に基づき三年に一回開催する第十三回定期総会を十一月に開催する予定でしたが、新型コロナウイルスによる感染防止を回避するため、また、一堂に会することを避け、本会報【第三十六号】に掲載した**書面による審議**とさせて頂きました。ただし、紙面上の都合もあり要点のみを列記させて頂きましたが、十分な資料提供と説明、あるいは質疑応答ができませんが、新型コロナウイルスが沈静化した後に開催を予定しております建築学部建築学科の卒業生輩出に伴う「(仮称)芝浦建築会」の発足に合わせた解散と設立を兼ねた総会を開催する予定で居りますので、その機会を利用させて頂いて、経緯等も含めて詳しくご報告申し上げます。書面審議の賛否につきましては、**本会報の第十三回建築会定期総会・懇親会【書面審議】のページ**をご拝読・ご理解の上、お手数をお付けしますが、返信葉書(お手数ですが、切手は返信者にて貼付して下さい)に「承認」または「反対」のご回答をお願い致します。勝手ながら、締切期限は二〇二一年二月二十八日までとさせていただきます。

この間、建築会に貴重なご貢献やご助言を頂いた**故石川洋美先生**(元建築学科教授、本学名誉理事長)が二〇一九年十二月十七日に、**故五十嵐久也氏**(前本学理事長、建築

科一九六四年卒)が二〇一九年十二月一〇日に、また、故岩井隆氏(建築会初代会長、芝浦工業専門学校建築科一九四七年卒)が他界されました。ここに深く感謝の意を表し、衷心よりご冥福をお祈り申し上げます。本来であれば、建築会として『送る会または徳公会』を催す計画で居りましたが、新型コロナウイルスの影響でほご中止せざるを得ない状況となりましたので、本紙面をお借りしお伝え申し上げます。

間もなく、芝浦工業大学は創立百周年を迎えようとしていますし、「建築会」は、二〇二一年から学部・学科再編に伴う新たな建築学部建築学科卒業生の会としての「(仮称)芝浦建築会」に呼称を改め、活動を継続していくこととなります。その際は、新たな役員・常任幹事の選出をはじめ、ホームページを活用したより効率的な情宣活動やネットワークの構築等を図りながら進めて行くことになると思われます。引き続き、卒業生諸氏のご協力・ご支援を重ねてお願い申し上げます。

石川洋美先生を

偲んで

松寿章(一九七八年卒)



2017年の総会後の懇親会で

石川洋美先生の追悼文を依頼されて、もっと相応しい方、多くの諸先輩や学内の先生方など、たくさんの方々の顔が浮かびました。

思い起こせば、学部時代には当時助教だった先生に、大学院では教授になられた先生に、親身にご指導頂きました。その後、非常勤講師として大学に数年通った時は

授となり、郷田先生が続きました。それ以外にも地方大学や建設業界、またそれ以外の業界で活躍する人が多くいます。

「俺の研究室から二人の教授が出たのは凄いだろ」とよく自慢していました。ありし日の先生の面影を偲ぶとき、いつも先生の笑顔のまわりに人が集まり、多くの物語ができました。コロナ禍の今、先生だったらどんなことを語り不安定な中でこれからの希望を語ってくれたらどうと思います。



2013年 傘寿を祝う会にて

その雄祐しい生き様に深い感銘を覚え、いつまでも心の中に生き続ける先生の真摯な姿は忘れることはないと思います。先生との出会いは私にとってはもちろん、出会った全ての人のとって大きな財産になっていくでしょう。本当にお世話になりましたとお伝えしたいと思います。

【株式会社松寿設計コンサルティング 主宰】

建築学科での想い出

小野清(一九七六年卒)



学友の建築会、功刀氏から建築会誌への執筆依頼を受けて、何を書くのかと悩みましたが、大学時代の青春の想い出を書かせて頂きます。

今、学生時代の生活を振り返ると、授業と美術工芸部の部活とケンケン(建築研究会)でのセミナー活動の三つが全てでした。その中で、建築を学び、仲間との付き合い方を

理事長になられた先生を間近で見ました。大学を離れてからは先生のゴルフコンペに誘われたり、ご自宅が近くだったこともあり、たまに訳もなくお訪ねしたりで、最晩年に至るまで先生の近くにいることができました。ずっと先生のお近くにいたこと事、また、現在六十五歳の私が諸先輩の方々と、若い世代の方々ととの橋渡しのような年代であることから、私なりに思い出を書き綴ってみます。

先生は昭和八年東京深川に生まれました。戦時体制下集団疎開も経験され、熱血教師のお父様の影響を受けながら、早稲田大学で建築の勉強をされました。その後、今和次郎先生の紹介で芝浦工大に入り、数年後、設計事務所を構え建築設計や作品の発表などの実務とともに教師として教育にかかりながら、大学運営にも深く関わっていかれました。『大学の学園闘争は大変だったよ』とよく述懐されていました。そうした時でも不撓不屈の精神で乗り切り、さらに自ら理事長として立派に芝浦工大の再生に取り組み、芝浦から豊洲への移転も実現させ今日の芝浦工大の発展につながっています。

私自身の学生の時の思い出としては、大学三年の課題設計の評価をしていたとき、「設計の完成度は少し低いし採点の点数はあまり良いわけではないが、芝浦の優秀な先輩たちに準ずるような強い構想力は感ずるよ、今後も頑張りなさい」と言われたのが嬉しくて、今があるのかなと思ったりします。どこかに褒めるポイントがあれば、必死に考えて絞り出した言葉だったんだと今では分かります。

大学を出てからは、芝浦の益々の繁栄を願いつけながら静かに過ごされていらっしやいました。大学の卒業生との交流はヨット部の名譽顧問をされたり、一六三会のゴルフコンペ、また、故小柳津先生方が立ち上げた円座では、学生たちの交流への橋渡しや理解をされ、建築会のイベントへの参加など、いつも芝浦のことを考えていてくれました。

大学を出てからは、芝浦の益々の繁栄を願いつけながら静かに過ごされていらっしやいました。大学の卒業生との交流はヨット部の名譽顧問をされたり、一六三会のゴルフコンペ、また、故小柳津先生方が立ち上げた円座では、学生たちの交流への橋渡しや理解をされ、建築会のイベントへの参加など、いつも芝浦のことを考えていてくれました。

と云っても、まじめに授業だけを受けて、絵を描き、読書会をしていた毎日ではありませんでした。授業をさぼって雀荘でマージャンをやり、負け続け、飲んで、田町駅前のおでん屋台を買い切って、おでん屋台のおでんを全部たいらあげて、意識のなくなるまで飲んで飲みつぶれたり、あっちこちの女子大とのコンパ(交流会)の連続で、小遣いがなくなり、日雇いバイトをする様な忙しい毎日でした。そんな中から、一年二年と進学するにつれて徐々に、人としていかに生きるべきかを漠然と身に着けていった様に思います。中でも一番の出来事は、ケンケンのゼミでのアメリカの建築家フランクロイドライトとの出会いで、私の建築の原点に成りました。二十八歳の秋に行ったアメリカ フランクロイドライトツアーでのアリゾナのライントスタジオでの自然に流れ出た涙の感動は、大学時代のケンケンの読書会なしでは、生まれなかったでしょう。また、家内とのデート中に口説き文句に使った、『建築とは芸術的空間の創造である』と言う様な言葉は、ケンケンと美術工芸部での活動がなかったら、言えなかった言葉だと思えます。その後、卒業し、社会人になり、一発で一級建築士を取得し、家内と結婚出来、ゼネコンの営業マンとして活躍が出来たのは、私が誇りに思う芝浦工業大学、建築学科での四年間のお陰だと、六十八歳の今思えます。本当にありがとうございました。

【株式会社ジンワードコム 事業本部コンサル設計】

た。建築学部が実現し、これからの卒業生のことについて、「建築会が建築工学科の卒業生の会である建友会と話を付けて、新しい卒業生を迎える準備をしておかなければいけないよ。と何度も話され、かつての円座のような新しい勉強会などを作ることで一つに纏まるんだっいたらいつでも参加するから頑張ってほしい」と激励されました。

最晩年お体を壊されてからも闘病しつつ各種学芸雑誌へ寄稿し、偏差値教育への反発や個性重視などの考えを展開し、芝浦のために先頭に立って、尽力されている姿を何度も見ました。二〇〇六年旭日中綬賞を授賞されました。その後ご自宅に何った時、「その褒章は教育に尽力したことへのもので設計に対しての褒章じゃないんだ。本当はもっと設計の仕事がしたかった。若い頃、建築家会館の競技設計の時、二等だったんだけど、一緒に横文彦が二等に入選していた。これからの新しい建築を切り開いていくのは俺と横文彦だと当時は思ったんだ。今でも観光に関する仕事に関わっているけど、その頃は千葉県知事の友納さんとお付き合いいで千葉県の記念館、こどもの国、美鈴湖展望台などの仕事をし、それに伴って人の繋がりが広がっていった。設計するのが楽しい時代だった」と話されていました。

『運命は性格の中にある』という作家の言葉があります。私はこの言葉を聞くと先生を思い出します。先生の周りは笑顔にあふれ、いつもまるで祝祭の場のようでした。その場から建築作品が生まれ、人の繋がりができました。その延長に理事長として実現した豊洲移転もあったんだと思います。こうしたことも何気なくこなし、いつも泰然とされていました。「自分が生きていくとき、いつももう一人の俺が俯瞰して自分を見ているんだ」と言っていた先生の日々の営みの先にこうしたことがあったんだと思います。

先生は芝浦工大に本当に大きな業績を残されました。何より人を育てました。先生のもとから故小柳津先生が教

建設業での体験と、 建築学科で学んだこと



鶴浩一郎(一九八八年卒)

卒業して三十二年目になります。今年度から、大木建設㈱東京本店の本店長を拝命しました。

就職した当時は、まさに日本がバブル経済に突入した時期でありました。入社してすぐに現場配属となり、人員不足の中、泥だらけになって何でもやらされた記憶があります。十年目で所長として現場を任せられ、内勤になるまでの二十年間現場一筋でやってきました。

そんな私が、いきなりリニューアル事業部立ち上げから事業部長を命じられた時は、非常に戸惑いましたが、現場所長時代の顧客に対する対応力、管理能力、そして技術力を認められての登用と自任し、かつ、入社当時の新鮮で謙虚な気持ちに戻り、今までやってまいりました。

現場所長時代は、とにかく部下任せにせず、現場を自分の目で確認するように心掛けてきました。現場は基本的には人に任せて作り上げていくものですが、任せっ放しにするなど係員時代上司から大変厳しい薫陶をうけて、自然と自身も「任せて任せず」の精神で現場の運営を行ってまいりました。

コロナ禍もあり、他の業界と同様に建設業界も大変厳しい経営環境となってまいりました。特に案件の受注競争は、し烈を極めている状況です。しかしながら、当社の経営陣の一角を担う執行役員として、東京本店を任せられたことにやりがいと矜持を持って、また、社員とその家族、協力業者の皆さんの生活への責任を果たすために陣頭に立って、し烈な受注競争に立ち向かっていきます。

大学四年間は、学生から社会へ飛び出す為の大切な準備期

間でもあり、その期間を芝浦の建築学科で過ごせた事が、今の自分にとって大きな財産となっています。特に、生産研究室(枝広研究室)で学ばせて頂いた一年間は、充実した学生生活でありました。

六名の研究室メンバーの中で四名は塩化物を含むコンクリートの耐久性向上と他二名は仕上げ材に関する耐久性向上に関する研究でした。ちなみに、私は、後者の研究で打ち込む様な作業の時は、仕上げ材研究班も一緒に型枠に全員で行いました。先輩とお話出来る機会も多く、礼儀や酒の飲み方も教わりました。私自身、厳しい期間の中で学会や通産省(当時)に提出する資料の一部を研究成果として残せた事、そして、何よりも尊敬できる恩師に学び、仲間に出会い、多くの先輩、後輩に出会えたことに感謝します。

研究室からのつながりで、今では校友会活動にも参加させていただき、今は校友会副議長をやらせていただけるようになりました。大学では建築よりも、人とのつながりの大切さを多く学んだ様な気がします。「汎愛衆而親仁」恩師からいただいた論語の一節です。座右の銘として一生大事にしています。

【大末建設株式会社 東京本店本店長】

退職のご挨拶

古屋 浩



二〇二〇年三月末日をもちまして芝浦工業大学を定年退職いたしました。二〇一一年東日本大震災直後に福岡より上京、その四月に工学部建築学科に着任させていただきました。九年間お世話になりました。芝浦工業大学でのこの九年間を大

過なく勤めさせていただくことができましたのも、ひとえに皆様方のご指導とご鞭撻の賜と感謝の念に堪えません。ここに深く御礼申し上げます。

在職中は、震災後の社会再構築と教育改革の時代渦の中、二〇一四年の工学部建築学科六〇周年、二〇一七年の建築学部建築学科開設を大きな節目とし、私自身は何のお役にも立てませんでした。芝浦建築の歴史と伝統の重みを感じながら、諸々貴重な経験をさせていただきました。また、二〇一一年度卒業生から工学部最後の入学生となった二〇一九年度卒業生まで約千名の学生諸君と共に、ある時は大宮の教室や豊洲の実験室で、ある時は歴史的建造物の空間に浸りながら、またある時は山奥の研修所で一面のソバの花畑を眺めながら、実に多くの驚きと発見に出会うことができました。着任と同時にスタートさせていただいた建築環境・音響研究室からは六名の若い力が果立って行かれましたが、建築と音を媒体として私自身成長できなかったことは、言うまでもなく彼らと共に日々切磋琢磨できたお陰であり何にも代え難い大きな財産となっています。職歴四〇年の道程の最後を、皆様方と密に過ごさせていただけましたご縁に改めて感謝申し上げます次第です。

現在、世界はコロナ禍の真ただ中で混沌としてきておりますが、これも人類社会がさらに発展するために背負うべき試練かと受け止めつつも、すべての人々の幸福に供する新しい形の移動・集合論の建築的展開のためのトリガーとなるやも知れないと感じています。まさに我慢の時ではありませんが、建築会の皆様方におかれましては、どうかお身体には十分に留意されてお過ごしただけだと思います。皆様方のご健勝と益々のご活躍をお祈り申し上げ退職のご挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

建築は人々の生活に寄り添った実学であり、建築環境研究も時代とともに変化します。建物の省エネ性や仕事の効率性ばかりを重視する従来の認識の先を行く、新しい生活文化と建築の関係を、建築環境研究の立場から提案したいと考えています。コロナの猛威が去った後にはよりよい生活や授業・研究のスタイルが定着しているように、精進して参ります。

【芝浦工業大学建築学部建築学科助教 建築環境学研究室】

デザインチャンピオンシップ 二〇一九

郷田修身(教授/一九九一年学部卒、一九九三年院修了)

第十八回を迎えたデザインチャンピオンシップが、二〇一九年の芝浦祭期間中の十一月一日に開催されました。デザインチャンピオンシップは二〇〇二年より始まった建築学科主催の建築設計コンペです。講師をお招きして、出題とご講演をして頂いたのち、十一月の学祭期間中に合わせて公開審査と作品展示を行います。

二〇一九年は英国人建築家のトム・ヘネガン先生に出題頂きました。ヘネガン先生は、主に英国、日本で建築家として活躍され、一九九四年には作品「熊本県草刈畜産研究所」で日本建築学会賞を受賞されているほか多数の受賞歴をおもちです。教育者としても東京藝術大学、シドニー工科大学などで教鞭をとられ、二〇一九年度より本学の教授に着任されています。

デザインチャンピオンシップ初の外国人講師による『Architecture in a Changing Society』(変わりゆく社会の中の建築)という出題に対し、建築学科をはじめ、他学科、大学院から総勢二十五組の応募がありました。パネ

ル展示の一次審査、公開プレゼンテーションの二次審査を行い、大学院二年生の杉山健太郎さんと大学院一年生の吉川一哉さん(いずれもいずれも二〇一九年当時)の作品「△」が最優秀賞に選ばれました。審査終了後は、製図室で授賞式と懇親会を行い、大いに盛り上がりました。建築会には、このイベントにご後援を頂いています。毎年、優秀作品賞の副賞その他に使わせて頂いています。工は二への支援を誠にありがとうございます。

デザインチャンピオンシップ二〇一九の受賞者の皆さま(学年は昨年の受賞時)

□最優秀賞 杉山健太郎さん(写真左・修士二年)

吉川一哉さん(写真中・修士一年)

いずれも原田研究室



着任にあたって

對馬聖菜



二〇二〇年四月より助教として着任致しました。歴史ある芝浦工大の教員として迎えて頂いたことに感謝し、緊張しながらも新しい環境を楽しみにしております。しかし、着任のタイミングからコロナウイルス感染拡大により、授業や会議は原則オンラインでの実施となり、殆どが手探りの状態で始まりました。

私は建築環境学を専門としており、室内環境が人の認識・行動に及ぼす影響と建築環境におけるエネルギー消費について、知的生産の場である都市部のワークプレイスを主な対象として研究しています。思い返すと、研究活動を始めた二〇一一年も、東日本大震災により世の中が大きく動いた年でした。この年に実施した節電オフィスの大規模調査では、従来当たり前とされていた高照度な執務環境が見直され、室内環境に対する認識が変化し、それに伴う行動変容により、快適性を低下させずに省エネルギー化が促進されたことを目の当たりにしました。震災は未曾有の被害をもたらしましたが、その不可抗な圧力が自らの生活や文化を見直すきっかけともなりました。

今とは異なるあり方を考えるヒントは、外圧に頼らずとも自ら得ることができます。共同研究の為デンマークに長期間滞在した際に、研究方法もさることながら、生活の豊かさに驚かされました。気候や社会背景の異なる環境で多くの素晴らしい生活文化を体感したことは、自身の価値観を深め、研究の幅を広げました。授業や研究、対話を通して、幅広い視野で考えるきっかけを本学の学生に少しでも提供できるよう努めるとともに、感染症流行によって移動の自由が制限される状況がいち早く改善されることを願っています。

□優秀賞 佐々木駿さん(修士一年・郷田研究室)

「Collective Residence for

Single-Parent Family」



□優秀賞 杉沢優太さん(写真中・修士二年)

安藤雅人さん(写真左・修士一年)

熊谷翼人さん(修士一年)

いずれも堀越研究室

「INCOMPACT IS COMFORTABLE」



卒業生による

業界研究セミナー2019

岸田慎司（教授／2019年度就職担当）

建築学部建築学科主催の業界研究セミナーが2019年十一月十二日（火）に開催されました。それに先立ち、キャリアサポート課からの就職活動に入る際の注意事項などの講義を受けました。卒業生を招いてのセミナーは、2004年から就職セミナーとして始まり、業界研究セミナーと名称を変えながら今回で十六回目となり、今回は建築学部として初の開催となりました。建築設計・構造設計・設備設計・建築施工・建築行政に携わる五名の卒業生をお迎えして、各分野での仕事のやりがいと難しさを楽しみ、日々の生活、自身がどのように進路を選んだかなど、後輩にだからこそ伝えられる内容を率直にお話し頂きました。

卒業して十五年ほどの先輩方のお話は、建築の実務の貴重な経験談とともに、日々の学生生活など、学生にとっても共感しやすく、自身の将来を考える上で大変参考になったようです。学部生（全コース）、大学院生が参加して、学生からの質問も数多く、予定時間を大幅に上回るほど盛況なイベントとなりました。講演して下さった皆様は毎年快く引き受けてくださり、開催できております。教員として非常にありがたいことと感じております。

講演者プロフィール

□施工分野 上田大裕（つえだまさひろ）

2005年 枝広研究室

現職社名 大成建設株式会社

現職部署 東京国際空港第2ターミナル

国際線施設建設工事作業所

業務の内容 建築施工管理

分野の研究開発や実務的にも大いに参考となる内容といえます。

○志村秀明教授・南一誠教授らが、「第十四回関東工教育協会賞（著作賞）2019年度」を受賞しました。受賞対象は、『大学とまちづくり・ものづくり 産学官民連携による地域共創』（三樹書房、2019年三月）です。本学が東京都心部の大学で唯一採択された「文部科学省地（知）の拠点整備事業」によるプロジェクトでの教員と学生の多くの取り組みと成果をまとめたものです。建築学科の多くの教員・学生がプロジェクトに参加しました。



□著書の出版

○土方勝一郎教授、岸田慎司教授、小澤雄樹教授、隈澤文俊教授、椛山健二教授が『よくわかる建築構造力学Ⅰ』『よくわかる建築構造力学Ⅱ』（森北出版）を出版しました。「構造力学・演習」「材料力学・演習」「建築構造解析・演習」の構造力学系三科目は建築構造の根幹をなす主要科目ですが、長年、工学部建築学科、建築工学科ではそれぞれ異なる教材を採用するなど、その教育内容は統一されることなく全く個別に実施されてきました。建築学部の発足を機に、コース間の教育内容の統一を図ることを目的として本教科書は作成されました。図や例題を多くし、基礎的な内容の解説に重点を置くなど、初学者にも分かり易くなるように工夫して作成しています。



□意匠分野 原嶋宏樹（はらしまひろき）

2006年 堀越研究室

現職社名 鹿島建設株式会社

現職部署 建築設計統括グループ

業務の内容 建築設計

□構造分野 足立幸多朗（あだちこうたろう）

2007年 岸田研究室

現職社名 株式会社安井建築設計事務所

現職部署 東京事務所 構造部

業務の内容 構造設計

□設備分野 根本智之（ねもとともゆき）

2006年 西村研究室

現職社名 株式会社大林組

現職部署 設計本部 設備設計第三部

業務の内容 設備設計

□官公庁 城向咲（じょうこうさき）

2008年 南研究室

現職社名 横浜市

現職部署 建築局 住宅部 住宅政策課

業務の内容 住宅に関わる業務等

建築学科関係者の活躍について

志村秀明（教授／2019年度／工学部建築学科主任）

建築学部は設立から四年が経ち、2020年度は完成年度となります。新たな体制のもとでの最近一年間の建築学科関係者の活躍、また建築会の新会員かつ工学部建築学科最後の卒業生となった2019年度の卒業生の研究成果について紹介させていただきます。



○志村秀明教授が『JAPANESE MACHIZUKURI AND COMMUNITY ENGAGEMENT HISTORY, METHOD AND PRACTICE』（共著、Routledge、2020年1月）を出版しました。日本のまちづくりを海外で紹介する初めての本格的な書籍です。大学院英語科目「Urban and Community Design」で使用されています。



また志村秀明教授は『ぐるっと湾岸再発見 東京湾岸それぞれの物語』（花伝社、2020年七月）を出版しました。「何もない埋立地」「大規模再開発の連続で人間味に欠ける」、そんな先入観を覆す、東京湾岸地域の豊かな歴史と文化を実在する地物から読み解いています。専門書ではなく、一般書として執筆されています。

二、学生の活躍

□学会関係（一）

【受賞者】曾我裕希（建設工学専攻修士二年、濱崎研究室）

【受賞年月】2020年三月

【受賞名】2020年日本建築工学会 修士論文賞

【発表題目】仕上材の劣化を考慮した集合住宅の外壁修繕周期の見直しに関する研究



一、教員の活躍

□学会賞等の受賞

○原田真宏教授が「道の駅ましこ」で、「2020年度日本建築学会賞（作品）」を受賞しました。

原田教授コメント「本作品は益子焼で有名な栃木県益子町に位置しており、里山や田園、それと深く関わる人々の暮らしといった、その地域特有の風土やその魅力を建築によって明らかにし、結果的に今では地域のシンボルとして多くの町民に認められ愛されています。このように一つの秀でた建築作品であることにとどまらず、地域全体の価値を高めた点が評価されたことは、世界をより豊かに変えていく使命を持つ建築家の一人として、大変光栄に思っております。建築に関係されたすべての方々と共に、様々にサポートして下さった同僚の先生方、職員の方々、そして学生たちに、深く感謝いたします。



○對馬聖菜助教が「公益財団法人 空気調和・衛生工学会第十七回功績賞」を受賞しました。受賞内容は、『快適な温熱環境のしくみと実践』の出版です。今回、全面改定となったこの著書は、人間を中心とした温熱環境の研究は空気調和設備の基盤であることから、健康性、知的生産性についても触れています。また、実践例も収録し、研究開発のヒントが得られるような構成となっています。本書でまとめられた温熱快適性に関する学問的な体系や理論は、本

□学会関係（二）

【受賞者】谷口勇人（建築学科四年、濱崎研究室）

【受賞年月】2020年三月

【受賞名】2020年日本建築材料協会 優秀学生賞

【発表題目】ジオポリマーモルタルの調合比率が強度と中性化特性に与える影響



□学会関係（三）

【受賞者】青山裕大（建築学科四年、濱崎研究室）

【受賞年月】2020年三月

【受賞名】2020年日本建築工学会 卒業研究賞

【発表題目】手すり交換工事におけるあと施工アンカーの適用に関する研究 ―コンクリート欠陥部が与える影響とその補修方法の検討―



□コンペ関係（一）

【受賞者】林侑也（修士二年、原田研究室）

・銀茶会の茶室2019原田裕季子賞

・第二回ウッドトランスフォームシステムコンペティション 一般部門入選

□コンペ関係（二）

【受賞者】味村悠平（修士二年、原田研究室）

・第二八回2A東京都学生卒業設計コンクール2019 西沢立衛賞

・せんだいデザイナーリーグ

2019 セミファイナリスト



□コンペ関係 (三)

【受賞者】 関健太 (修士一年、原田研究室)
・ VENUSTAS ITALY DESIGN COMPETITION 2020 入選



□コンペ関係 (四)

【受賞者】 海老原輝 (建築学科四年、原田研究室)
・ PALLET AWARD 2019 優秀賞



□コンペ関係 (五)

【受賞者】 海老原輝、森永あみ (建築学科四年、原田研究室)
・ 第十三回長谷工住まいのデザインコンペティション 佳作

□コンペ関係 (六)

【受賞者】 山際朝香、高木梨紗子 (建築学科四年、原田研究室)
・ 仮囲いデザインコンテスト 長野県建設事業協同組合連合会賞 (共同制作)



□コンペ関係 (七)

【受賞者】 酒井弘靖 (建築学科四年、原田研究室)
・ 第三回ボラス学生建築デザインコンペティション 佳作
・ 第二回古事記アートコンテスト 佳作

□卒業論文 優秀賞 (五十音順)

飯田美嘉 「岡々田八幡宮 (栃木県小山市) の再建に関する研究」

家住憲司 「散乱光特性から見たデジタル粉じん計の粒径依存性に関する研究」

植原真奈 「ユニバーサルデザインのための聴覚的指標 - 公共空間における方向知覚に関する音響心理実験」

大賀智史 「コンクリート内の腐食環境が鋼材の腐食生成物の発生および成長に与える影響に関する研究」

座間汐里 「鎌倉市湘南海岸線沿いの住宅地における住環境と景観の変化」

谷口勇人 「ジオポリマーモルタルの調合比率が強度と中性化抵抗性に与える影響」

コロナ禍での建築学科の近況

二〇二〇年度の建築学部建築学科は、新入生二四八名を迎え入れることができましたが、春期入学式は新型コロナウイルス感染症拡大のため中止となりました。また、前期は完全オンライン授業、また後期もほぼオンライン授業が続いています。オンライン授業は、悪いことばかりではないことが確認されていますが、実験や演習、製図科目等では、学生の不満が多く寄せられています。新入生のはほぼ全員が、春期の代わりとなった秋期入学式(九月二十三日)に出席して、やっと大学キャンパスに入ることができ、また同級生や教員陣と直に会うことができましたが、多くの学生がストレスを抱えていることがアンケート調査から分かっています。厳しい状況が続きますが、教員一同、教育・研究に邁進する所存でございます。建築学会員の皆様には、今後ともご支援を賜りたく宜しくお願い申し上げます。

□コンペ関係 (八)

【受賞者】 波多剛広建 (築学科四年、原田研究室)
・ Asia Young Designer Award 2019 優秀賞



□コンペ関係 (九)

【受賞者】 波多剛広、小野真央 (築学科四年、原田研究室)、西村琢真、加藤利基 (建築学科四年、ヘネガン研究室)
・ 仮囲いデザインコンテスト 福島県建設業協同組合賞 (共同制作)

□コンペ関係 (十)

【受賞者】 大久保尚人 (修士一年、郷田研究室)
【受賞年月】 二〇二〇年十月
・ 木の家設計グランプリ二〇二〇 審査員長特別賞「自然を味方にする暮らし」



三. 二〇一九年度の卒業生

二〇一九年度の卒業研究(論文・設計) 優秀者および各賞の受賞者は以下の通りです。

□学業成績 最優秀賞・総代 廣瀬量子
□学業成績 優秀賞・有元賞 阿部寛子
□学業成績 優秀賞 (五十音順)

家住憲司/植原真奈/車田日南子/座間汐里
高橋 萌/土屋悠太/益満悠大
□卒業設計 最優秀賞・三浦賞 車田日南子
「水辺のPassage」
御茶の水に奏でる音風景」

第十三回 建築会 定期総会・懇親会 について (書面審議)

第十三回建築会定期総会・懇親会につきましては、「芝浦工業大学建築会」のHPでもご案内をさせて頂き、二〇二〇年十一月二十八日(土)に開催する予定で計画・準備してきましたが、二〇二〇年十月七日および十一月四日に開催されたZoomによるオンライン常任幹事会で、新型コロナウイルスの影響を考慮し、「密」を避けるためにも一堂に会しての総会・懇親会を中止することにさせて頂きました。ただし、会員の皆様にご周知の通り、会則により「総会は三年に一回開催する」に基づき二〇二〇年度中に開催する予定でしたが、今回は主要事項に限定した書面による審議とさせて頂くことになりましたので、宜しくお願ひ申し上げます。

これまでの総会とは異なり、資料を配布して十分なご報告および質疑応答等はできませんが、何卒趣意をご理解の上、下記に列記した概要の内容をご確認いただきまして、同封の返信用葉書(お手数ですが、切手は返信者にて貼付して下さい)に「承認」または「反対」のご回答をお願い致します。ただし、**回答期限は二〇二二年二月二十八日まで(消印有効)**とさせて頂きます。

なお、審議事項に関しましては、会則第六条(六)「議事は、出席者の過半数をもって決定する。」に従い、返信された葉書の有効総数の過半数(会則変更については三分の二以上、解散および残余資金の扱いについては四分の三以上)をもって成立したものとさせて頂きます。

□卒業設計 優秀賞 (五十音順)

伊藤ひなの 「ウラハラのウラカラ、コレカラ - 変遷するヴォイドによる未来成街区の提案 -」
大久保尚人 「葡萄畑のある暮らし - 耕作」を媒介としたローカルな共同体の再考」

□卒業設計 特別賞 (五十音順)

上野美紀 「鑄者にみせられて - 孤立した町工場と外国人労働者のつながり」
竹林幸之助 「復興縁所 - 地域に縋り、いかす建築計画」

□卒業論文 優秀賞・浜田賞 (五十音順)

秋澤貴哉 「パイルキャップを有する杭頭接合部のト形部分架構に関する研究 - 偏心がパイルキャップの破壊性状に及ぼす影響について -」

阿久津友規 「粘性ダンパーを用いた応力分散型木造建築の振動特性」

石原陸 「熊本地震による東海大学阿蘇キャンパス1号館被害調査 - 調査結果の分析 -」

杉本耕太 「熊本地震による東海大学阿蘇キャンパス1号館被害調査 - 調査結果の整理 -」

□卒業論文 優秀賞 (五十音順)

一色智道 「東京都中央区佃島の地域社会の変化に関する研究 - 佃島漁業共同組合、佃卸業者、佃門徒講、佃住吉講に着目して -」

紙面上、要点のみに限定させて頂きましたが、主な報告・審議事項の概要は、以下の通りです。

【第一号議案】二〇一七年度～二〇二〇年度の活動報告と今後の活動方針について

一. 二〇一七年十二月十三日 - 第十二回建築会総会・懇親会の開催

二. 二〇一八年二月～十二月 - 八回の常任幹事会の開催、一回の建築会と建友会の合同会議の開催、建築学科学位授与式への出席と挨拶および記念品授与、会報三十四号の発行ほか

三. 二〇一九年二月～十二月 - 八回の常任幹事会の開催、二回の建築会と建友会との合同会議および一回のコア会議の開催、建築学科学位授与式への出席と挨拶および記念品授与、会報三十五号の発行ほか

四. 二〇二〇年一月～十一月 - 四回の常任幹事会の開催、二回の建築会と建友会とのコア会議の開催、会報三十六号の発行準備ほか

五. 今後の活動方針について - 第三号議案による(仮称)芝浦建築会を設立し、新しい役員・常任幹事のもと、新会則に基づき継続して建築学科卒業生の会を運営する。

◎右記の活動報告と今後の活動方針について、ご承認をお願い致します。

【第二号議案】二〇一八年度～二〇二〇年度の決算報告に ついて

二〇一八年度の会計報告につきましては会報三十四号で、二〇一九年度の会計報告につきましては会報三十五号で、さらに本年度(二〇二〇年度)の会計報告につきましては本会報三十六号で報告させて頂きました。なお、会計監査につきましては滞りなく監査

二〇二〇年度 建築会会費納入者

二〇二〇年の建築会会費（二千円／年）納入者の卒業年と氏名を下記に紹介させて頂きます。内、二十三名からは複数口納入いただきました。皆様には厚くお礼申し上げます。建築会の益々の活性化・発展等のために有効に使わせて頂く所存ですが、今後とも更なるご協力の程を宜しくお願い致します。

（役員・常任幹事一同）

| | | | |
|-----|------|-----|-------|
| 元教員 | 塘直樹 | 昭38 | 富永平三郎 |
| | 富永良子 | | 松林宏明 |
| | 相田武文 | | 三門一夫 |
| 昭25 | 岩瀬定保 | | 宮澤正倫 |
| | 岡田實 | 昭39 | 佐藤彰 |
| 昭30 | 澁木昭一 | | 柴村堯海 |
| | 平野雅昭 | | 白子隆 |
| 昭33 | 岩井延雄 | | 田口継道 |
| | 加藤國男 | | 塚原満 |
| | 勢ノ和 | | 辻垣正彦 |
| | 橋本公克 | | 辻村進 |
| | 藤内哲雄 | | 廣田敏郎 |
| 昭34 | 町田康 | | 三浦敏彦 |
| | 石川憲一 | | 村杉隆夫 |
| | 岡本嘉行 | | 村山勝正 |
| | 川島敦彦 | 昭40 | 安森久亮 |
| | 菅野茂一 | | 石井敏明 |
| 昭35 | 吉田寿郎 | | 今井紘一 |
| | 鈴木敏夫 | | 北川良和 |
| 昭36 | 真塩浩一 | | 柴田邦彦 |
| | 生沼善左 | | 白谷武一 |
| | 刈谷靖彦 | | 辰巳一郎 |
| | 清田清司 | | 谷端順一 |
| | 佐藤勝利 | | 矢口弘康 |
| 昭37 | 渡井清 | 昭41 | 吉田勇 |
| | 岡田紘 | | 石鍋元章 |
| | 小林功 | | 大蔵久 |
| | | | 小澤良明 |

| | | | |
|-----|-------|----|-----------|
| 昭3 | 鈴木剛 | 昭3 | 伊藤馳 |
| | 古川達也 | | 稲垣圭亮 |
| | 石久保猛 | | 植原真奈 |
| 昭4 | 原修一 | | 大賀智史 |
| 昭6 | 安藤毅 | | 太田まつり |
| 昭7 | 鈴木宏治 | | 大藤光将 |
| | 林奈津子 | | 尾上希一 |
| 昭8 | 秋山恭一 | | 故東哲 |
| | 青木哲也 | | 小森美緒 |
| | 安達晋悟 | | 佐藤麗香 |
| | 笹本昌代 | | 座間汐里 |
| | 戸田悟史 | | 澤野詩帆 |
| | 丹羽修 | | 謝少娟 |
| | 渡邊将宏 | | シエルフ多田野香子 |
| | 古市隆志 | | 高橋萌 |
| 昭11 | 中村真史 | | 谷口勇人 |
| 昭12 | 大橋拓郎 | | 谷澤雄太 |
| 昭14 | 正林一紀 | | 土屋悠太 |
| 昭16 | 森本和生 | | 土肥広人 |
| 昭18 | 守屋仁 | | 中静希亜 |
| 昭22 | 加藤優一 | | 永谷柊馬 |
| | 杉本悠子 | | 中村浩 |
| | 新堀達也 | | 林田航 |
| | 田中麻里 | | 廣瀬暈子 |
| 昭24 | 木村康孝 | | 廣瀬寛士 |
| | 長谷部美紅 | | 古谷輝 |
| 昭26 | 岩間信彦 | | 村上優介 |
| | 柄澤祥雄 | | 村木優太 |
| 昭27 | 多久和大海 | | 横田利生 |
| 昭28 | 福山心みの | | 和田湧斗 |
| 昭30 | 松永彬利 | | 渡沼陽花 |
| 昭31 | 築館明智 | | |
| 昭31 | 中寛健人 | | |
| 昭31 | 小川恭平 | | |
| 昭31 | 吉岡駿佑 | | |
| 昭31 | 青山裕太 | | |
| 昭31 | 阿部寛子 | | |
| 昭31 | 有本碧 | | |
| 昭31 | 飯田美嘉 | | |
| 昭31 | 家住憲司 | | |
| 昭31 | 石田拓也 | | |

※昭2は新会員 入会金三千円

つづ

建築会と建友会で、それぞれ三回の合同会議およびコア会議を開催し、新会則について鋭意検討を行ってきましたが、ほぼ原案が纏まりました。設立総会開催時に経緯も含めてご報告・ご説明し、改めて承認を得て、新会則のもとに運営して参りたいと考えております。

◎右記の会則変更に伴う進め方について、ご承認をお願い致します。

【第六号議案】今後の「(仮称)芝浦建築会」の進め方および懇親会の開催について

建築会としましては、「(仮称)芝浦建築会」が設立されるまで、現状の役員・常任幹事で運営・活動を継続して行っておりますが、新型コロナウイルス禍が沈静化した後に開催を予定しております建築学部建築学科の卒業生の迎え入れに伴う「(仮称)芝浦建築会」の発足に合わせた解散と設立を兼ねた総会を開催する予定で居ります。と同時に、懇親会も是非開催したいと考えておりますので、皆様のご協力とご理解およびご支援を宜しくお願い申し上げます。

◎右記の今後の進め方および懇親会の開催について、ご承認をお願い致します。

* 回答期限は二〇二二年二月二十八日まで(消印有効)とさせて頂きます。

| | | | |
|-----|-------|-----|-------|
| 昭48 | 石山則広 | 昭53 | 田浦英典 |
| | 加藤泰久 | | 高橋延幸 |
| | 亀甲将実 | | 月居利久 |
| | 久須美敏行 | | 富安伸好 |
| | 鈴木秀幸 | 昭54 | 弓達和彦 |
| | 塚田栄一 | | 池之上誠 |
| | 戸山芳一 | | 今村司 |
| | 野崎喜一郎 | | 笠井義文 |
| 昭49 | 平田満 | | 吉見光宣 |
| | 岩瀬繁 | | 財満勝徳 |
| | 枝広秀子 | 昭55 | 杉山政市 |
| | 加治喜久雄 | | 釜井重一 |
| | 河村和明 | | 鈴木宏始 |
| | 川本勝一 | 昭56 | 美原陽太郎 |
| | 水口和幸 | | 竹内孝 |
| 昭50 | 春日義則 | | 本間崇 |
| | 小林中 | 昭57 | 村田優 |
| | 中野隆夫 | | 大崎関男 |
| | 橋本好司 | | 片山淳夫 |
| | 山本仁 | 昭58 | 宮下俐 |
| | 山崎真 | | 大竹昌彦 |
| 昭51 | 浅見勝 | | 千須和正夫 |
| | 阿部澄夫 | 昭59 | 針谷 直樹 |
| | 伊東昭博 | | 内田美由喜 |
| | 功刀強 | 昭60 | 伊藤政人 |
| | 小林一生 | | 平林重徳 |
| | 齋藤喜義 | 昭61 | 古沢恵三 |
| | 菅原紀昭 | | 小山滋 |
| 昭52 | 早川金光 | | 鈴木泉 |
| | 金岡敏 | 昭62 | 西浜清則 |
| | 小宮誠 | 昭63 | 鶴浩一郎 |
| | 須賀研太郎 | 平1 | 飯嶋直子 |
| | 竹原基好 | | 奥岡三好 |
| | 寺門慶二 | | 昆野雄吾 |
| | 中島彰男 | | 進藤浩幸 |
| | 西村一孝 | | 芹澤尚明 |
| 昭53 | 萩野正雄 | | 高山直明 |
| | 牧内昭憲 | | 竹中明彦 |
| | 小川邦博 | 平2 | 山下浩司 |
| | 小熊靖彦 | 平2 | 砂野公一 |
| | 佐々木隆 | 平3 | 杉原嘉一 |

を終了しております。

◎右記の会計報告について、ご承認をお願い致します。

【第三号議案】「建築会」の解散と「(仮称)芝浦建築会」の設立計画について

一九五四年に大学として認可された工学部建築学科は、二〇一七年に工学部建築工学科およびデザイン工学科デザイン工学科建築・空間デザイン領域と統合し、建築学部建築学科へと再編されました。二〇二二年四月には建築学部としての初めての卒業生が輩出されます。これを機に、建築会と建築工学科の〇B会「建友会」と建築学部の卒業生を合わせた新たな〇B会を設立しようとする準備会を設立し、検討を続けています。これまでの建築会は解散し、現時点はまだ仮称ではありませんが、「芝浦建築会」に合流し、今後も活動を継続していきたいと考えております。

◎右記の建築会の解散に向けて準備を進めること、さらに「(仮称)芝浦建築会」の設立に向けて準備を進めること、ご承認をお願い致します。

【四号議案】「(仮称)芝浦建築会」の役員および常任幹事の改選について

建築会と建友会(建築工学科の卒業生の会)で合同会議およびコア会議を開催し、鋭意検討を行っておりますが、設立総会前にはほぼ確定し、円滑な引継ぎができるよう努力して参りたいと考えておりますので、卒業生諸氏からの推薦(自薦・他薦を問いません)を宜しくお願い致します。なお、「芝浦建築会」が正式に発足・活動する迄は、現建築会の役員・常任幹事が留任して活動します。

◎右記の役員・常任幹事の改選について、ご承認をお願い致します。

【第五号議案】「(仮称)芝浦建築会」発足に伴う会則変更につ

| | | | |
|-----|-------|-----|-------|
| 昭41 | 澤本孟士 | 昭46 | 内田守 |
| | 山本文雄 | | 枝広英俊 |
| 昭42 | 阿部泰資 | | 大根弘行 |
| | 有坂政子 | | 唐沢勉 |
| | 五十嵐剛 | | 河合誠 |
| | 池崎博二 | | 河野賢三 |
| | 押井秀夫 | | 木谷和俊 |
| | 河井洋 | | 久米勝 |
| | 菊池廣子 | | 小堀雅彦 |
| | 佐藤久松 | | 佐藤秀夫 |
| | 澤口洋 | | 辻梓 |
| | 菅原光彌 | | 辻村建 |
| | 豊岡幸夫 | | 中村周一郎 |
| | 永田光弘 | | 橋本貞章 |
| | 仁木勝清 | | 広瀬文宣 |
| | 宮内古勝 | | 福田俊次 |
| 昭43 | 山田一竹 | | 藤井和俊 |
| | 秋山大植 | | 藤森正男 |
| | 井家常雄 | | 峰岸厚 |
| | 石橋修 | | 矢代誠 |
| | 大塚家光 | | 山田洋 |
| | 荻野勝弘 | | 和田伸一 |
| | 田中龍雄 | | 渡部精 |
| | 峰村一彦 | 昭47 | 猪原幸生 |
| 昭44 | 井上敬博 | | 春日貞秋 |
| | 勝部民男 | | 佐藤文俊 |
| | 狩野三雄 | | 瀬口啓一 |
| | 國藤祚光 | | 高原三平 |
| | 権田武路 | | 高松学 |
| | 染谷清 | | 玉井賢一 |
| | 高山和則 | | 直海秀紀 |
| | 鶴巻智信 | | 長井義明 |
| | 平沢勇 | | 西村修 |
| | 保科俊彦 | | 増山栄 |
| | 米澤稔 | | 松田悦朗 |
| | 家本喜久雄 | | 松塚昇 |
| 昭45 | 寺田幾夫 | | 峰尾守 |
| | 成毛弘治 | | 三原一成 |
| | 野村康敏 | | 宮川義英 |
| | 光本清 | | 山梨博 |
| | 山本勇 | | 山根克史 |